

「九条の会・中野」憲法問題連続学習講座 第29回

東アジア情勢と安全保障

北朝鮮の相次ぐ弾道ミサイル発射や核実験の兆候に対して、米トランプ政権が原子力空母派遣など強硬な姿勢を示したことで、朝鮮半島に緊張が走りました。いわゆる「4月危機」説はとりあえず過ぎ去ったものの、依然として予断を許しません。

朝鮮半島の緊張のみならず、尖閣諸島問題、南シナ海領有問題など、我が国周辺及び東アジアはいくつかの懸念を抱えています。

事態の本質と解決の道筋はどこにあるのか。国際紛争の武力による解決を永久に放棄した我が国は、私たちの東アジアの平和と安定のために何をすべきなのか。元外交官の孫崎享さんに、お話をうかがいます。

日 時 8月31日(木) 午後6時会場 6時半開会

場 所 なかのZERO 西館学習室1 (2階の奥)

参加費 800円(中高生無料)

講 師 孫崎 享さん(元外交官、評論家)



孫崎享さん プロフィール

1943年、旧満州国鞍山生まれ。66年、東大法学部を中退し、外務省に入省。英国、米国、ソ連、イラク、カナダ駐在を経て、情報調査局分析課長、駐ウズベキスタン大使、国際情報局長、駐イラン大使を歴任。2002年から防衛大学教授に就き、09年退官。

著書 「日本外交 現場からの証言」(中公新書)

「日米同盟の正体 迷走する安全保障」(講談社現代新書)

「戦後史の正体」(創元社)・・・など

(情勢が緊迫している今だからこそ、九条を全面に出し、外交を繰り広げるべきです。改憲にエネルギーを割いている状況ではないはずだと、声を大にして言いたいと思います。

——— 岩波新書「世界」7月号、河野洋平(自民党元総裁)「東アジアの危機をどう克服するか」より、締めくくりの言葉)